

# 平田 元 教授略歴・業績目録

## 略 歴

- 一九七七年三月 愛媛大学法文学部法学科卒業
- 一九七七年四月 九州大学大学院法学研究科民刑事法学専攻修士課程入学
- 一九七九年三月 九州大学大学院法学研究科民刑事法学専攻修士課程修了（法学修士）
- 一九七九年四月 九州大学大学院法学研究科民刑事法学専攻博士後期課程進学
- 一九八二年三月 九州大学大学院法学研究科民刑事法学専攻博士後期課程単位取得満期退学
- 一九八二年四月 九州大学助手法学部（一九八四年三月まで）
- 一九八八年四月 三重大学講師人文学部
- 一九八九年四月 三重大学助教授人文学部
- 一九九一年八月 三重大学大学院人文社会科学研究科兼任
- 一九九五年三月 外国留学／海外研修 連合王国プリストル大学法学部（一九九六年三月まで）
- 一九九五年四月 三重大学教授人文学部
- 二〇〇三年四月 熊本大学教授法学部、大学院法学研究科兼任
- 二〇〇四年四月 熊本大学教授大学院法曹養成研究科
- 二〇一〇年四月 熊本大学大学院法曹養成研究科副研究科長（二〇一四年三月まで）

二〇一四年四月 熊本大学大学院法曹養成研究科研究科長（二〇一六年三月まで）

二〇一七年四月 熊本大学教授大学院人文社会科学部

二〇二〇年三月 熊本大学退職

◎在任期間中、三重短期大学、名古屋経済大学、三重大学、新潟大学、琉球大学で非常勤講師をつとめる。

**学会及び社会における活動**

一九七七年 日本刑法学会会員

一九七九年 九州法学会会員

二〇〇六年 財団法人日弁連法務研究財団評価委員

二〇〇八年 熊本県弁護士会綱紀委員会予備委員

二〇一二年 熊本県弁護士会懲戒委員会委員

**業績目録**

〔一〕 著書

（単著）

・ 『刑事訴訟における片面的構成——事実認定と上訴をめぐって』（熊本大学法学会叢書 15）成文堂（二〇一七年）

(共著)

- ・ 曾我英雄・上野達彦編著『法学——人権・くらし・平和』敬文堂（一九九三年、新版『あたらしい法学』一九九八年）「第四章「刑事手続と人権」を分担執筆」
- ・ 庭山英雄・岡部泰昌編『現代青林講義 刑事訴訟法』青林書院（一九九四年、新版二〇〇二年、第三版二〇〇六年）「第五編第二章「一事不再理と二重の危険」を分担執筆」

〔二〕論文

- ・ 「ドイツ誤判研究史」九大法学四七号（一九八四年）
- ・ 「上訴審による自由心証主義のコントロール」九大法学五二号（一九八六年）
- ・ 「刑事事件における供述分析について（一）——最近の西ドイツの議論を参考にして」三重大学法経論叢六卷一号（一九八八年）
- ・ 「検察官の上訴は、なぜ許されるか」法学セミナー四一八号（一九八九年）
- ・ 「無罪判決に対する上訴禁止に関連して」(刑事訴訟法四〇年の軌跡と展望)ジュリスト九三〇号（一九八九年）
- ・ 「刑事事件における供述分析について（二）——最近のドイツの議論を参考にして」三重大学法経論叢九卷一号（一九九一年）
- ・ 「刑事裁判は甦るか 無罪推定を基調とした捜査・証拠評価を／板橋強制わいせつ事件」法学セミナー四四二号（一九九一年）
- ・ 「刑事訴訟における片面的構成の理論的基礎——厳格な証明、弾劾証拠を中心に」横山晃一郎先生追悼論文

- ・ 集『市民社会と刑事法の交錯』成文堂（一九九七年）
- ・ 「控訴審における破棄自判・有罪の問題」光藤景皎編『事実誤認と救済』成文堂（一九九七年）
- ・ 「イギリス刑事上訴法改正」刑法雑誌三六卷二号（一九九七年）
- ・ 「イギリスにおける刑事陪審と上訴制度——『内在的疑い（Inking Doubt）』を中心に」井戸田侃他編 竹澤哲夫先生古稀祝賀記念論文集『誤判の防止と救済』現代人文社（一九九八年）
- ・ 「救済の観点からみた証明論」（特集 事実認定の今日的課題）刑法雑誌三九卷二号（二〇〇〇年）
- ・ 「ドイツにおける目撃証人の取り扱い」渡部保夫監修・一瀬敬一郎他編著『目撃証言の研究』北大路書房（二〇〇一年）
- ・ 「間接事実の立証——刑法学会における議論から」季刊刑事弁護二七号（二〇〇一年）
- ・ 「イギリスにおける『二重の危険』論議をめぐって——最近の法律委員会報告書を中心に」光藤景皎先生古稀祝賀論文編集委員会編『光藤景皎先生古稀祝賀論文集 下巻』成文堂（二〇〇一年）
- ・ 「控訴審の構造」松尾浩也・井上正仁編『刑事訴訟法の争点（第三版）』ジュリスト増刊（二〇〇二年）
- ・ 「事実と真実——刑事訴訟における『了解』の意義について」（共同執筆）法の理論二二号（二〇〇三年）
- ・ 「事実認定の理論と裁判実務——自白の注意則研究を中心に」法律時報一〇月号（二〇〇五年）
- ・ 「控訴審・上告審論の展望」村井敏邦・川崎英明・白取祐司編『刑事司法改革と刑事訴訟法 下巻』日本評論社（二〇〇七年）
- ・ 「冤罪からみた日本の刑事手続の問題点——事実認定のあるべき姿」二〇〇九年九州法学会会報（二〇〇九年）
- ・ 「ある第一審無罪・控訴審破棄差戻し事件の考察」熊本法学一二〇号（二〇一〇年）

〔三〕 翻訳

- ・ 「グエン・シーボーン『検死官と検死官陪審・刑事司法への素人参加の一形態』」鯨越溢弘編『陪審制度を巡る諸問題』現代人文社（一九九七年）
- ・ 「ロウラ・ホヤノ『刑事訴訟における被告人の役割』」鯨越溢弘編『陪審制度を巡る諸問題』現代人文社（一九九七年）

〔四〕 紹介・書評

- ・ 「ブルース・L・ダントー『臨終における病者——自殺とその予防』」法政研究四四卷二号（一九七七年）
- ・ 「世界の刑事再審法 13 ソビエト」（共同執筆）判例タイムズ三八四号（一九七九年）
- ・ 「ワークシヨップ『逮捕・勾留』（共同執筆）刑法雑誌二七卷三号（一九八六年）
- ・ 「ブックレビュー 川崎英明著『現代検察官論』——『検察の民主化』への今日的な理論を呈示』」季刊刑事弁護一六号（一九九八年）
- ・ 「書評 熊本日日新聞社編『新版 検証・免田事件』」熊本日日新聞平成二一年七月二六日朝刊（二〇〇九年）

〔五〕 判例評釈

- ・ 「無人速度監視装置（オービスⅢ）による写真撮影の適法性」法学セミナー三二三号（一九八一年）
- ・ 「強制採尿」法学セミナー三三四号（一九八二年）
- ・ 「犯人識別供述の信用性」平成三年度重要判例解説 ジュリスト一〇〇二号（一九九二年）

- ・ 「量刑と余罪」 刑事訴訟法判例百選（第六版） 別冊ジュリスト一一九号（一九九二年）
- ・ 「約束による自白」 刑事訴訟法判例百選（第七版） 別冊ジュリスト一四八号（一九九八年）
- ・ 「偽計による自白」 刑事訴訟法判例百選（第八版） 別冊ジュリスト一七四号（二〇〇五年）
- ・ 「取調べ手続の違法と自白」 刑事訴訟法判例百選（第九版） 別冊ジュリスト二〇三号（二〇一一年）

## 〔六〕 学界回顧

- ・ 「一九九九年 学界回顧・刑事訴訟法」（共同執筆）法律時報一二月号（一九九九年）
- ・ 「二〇〇〇年 学界回顧・刑事訴訟法」（共同執筆）法律時報一二月号（二〇〇〇年）
- ・ 「二〇〇一年 学界回顧・刑事訴訟法」（共同執筆）法律時報一二月号（二〇〇一年）
- ・ 「二〇〇二年 学界回顧・刑事訴訟法」（共同執筆）法律時報一二月号（二〇〇二年）

## 〔七〕 判例回顧

- ・ 「一九八九年 判例回顧と展望・刑事訴訟法」（共同執筆）法律時報四月臨時増刊号（一九九〇年）
- ・ 「一九九〇年 判例回顧と展望・刑事訴訟法」（共同執筆）法律時報二月臨時増刊号（一九九一年）
- ・ 「一九九一年 判例回顧と展望・刑事訴訟法」（共同執筆）法律時報三月臨時増刊号（一九九二年）

## 〔八〕 辞典

- ・ 三井誠他編『刑事法辞典』（「挙証責任」「主張責任」「証拠提出責任」の項目）信山社（二〇〇三年）

・ 佐藤幸治他編『コンサイス法律学用語辞典』（択一的認定）「調書判決」を含む四三項目）三省堂（二〇〇三年）

〔九〕 その他の論考

- ・ 「刑事システムのキーワード 捜査」法学セミナー四三九号（一九九二年）
- ・ 「刑事システムのキーワード 公訴時効・刑の時効」法学セミナー四三九号（一九九一年）
- ・ 「名張毒ぶどう酒事件 津地裁判決（一審）・名古屋高裁判決（二審）、第五次再審請求棄却決定の重要ポイント比較表およびまとめ」えん罪名張毒ぶどう酒事件全国ネットワーク編『名張毒ぶどう酒事件——その真実』（一九九二年）
- ・ 「法学特論雑感」大学教育研究——三重大学授業研究交流誌第一号（一九九三年）
- ・ 「正義の実現としての死刑は許されるか」佐伯千仞・団藤重光・平場安治編著『死刑廃止を求める』日本評論社（一九九四年）
- ・ 「当番弁護士実態調査雑感」日弁連刑事弁護センターニュースNo.8（一九九四年）
- ・ 「再伝聞」井戸田侃・光藤景皎編『別冊法学セミナー司法試験シリーズ刑事訴訟法Ⅱ（第三版）』日本評論社（一九九五年）
- ・ 「イングランド（英国）滞在雑感」三重大学 学園だより一三七号（一九九六年）
- ・ 「意見書」（東京地裁平成一九年台（わ）第五三三九号爆発物取締罰則違反事件）東京地方裁判所に提出（二〇〇九年）
- ・ 「熊本県司法過疎地域における法的紛争をめぐる現状分析」（分担執筆）熊本ロージャーナル一四号（二〇一四年）

## 〔一〇〕 研究報告

- ・ 「ペーターズの事実認定論と誤判原因論」日本刑法学会九州部会（一九八〇年）
- ・ 「事実認定の構造」日本刑法学会九州部会（一九八一年）
- ・ 「事実認定と事後審査」日本刑法学会九州部会（一九八六年）
- ・ 「自由心証主義と控訴」上訴・再審研究会（一九八八年）
- ・ 「自由心証主義と控訴」日本刑法学会九州部会（一九八八年）
- ・ 「西ドイツにおける供述分析について」日本刑法学会名古屋部会（一九八八年）
- ・ 「陪審と上訴」陪審制度研究会（一九九〇年）
- ・ 「ドイツにおける目撃供述について」日本刑法学会名古屋部会（一九九三年）
- ・ 「青木英五郎の事実認定論」事実認定研究会（一九九四年）
- ・ 「英国における刑事上訴をめぐって——一九九五年英国刑事上訴法改正（Criminal Appeal Act 1995）」日本刑法学会名古屋部会（一九九六年）
- ・ 「救済の観点からみた証明論」日本刑法学会第七七回大会 分科会Ⅱ「事実認定の今日的課題」（一九九九年）
- ・ 「刑法学会分科会報告を終えて」日本刑法学会名古屋部会（一九九九年）
- ・ 「総論的問題提起」ワークショップ「情況証拠による事実認定」日本刑法学会第七八回大会（二〇〇〇年）、  
刑法雑誌四〇巻三号（二〇〇一年）参照
- ・ 「事実認定のあるべき姿」シンポジウム「冤罪からみた日本の刑事手続の問題点」九州法学会第一一四回學術大会（二〇〇九年）